

# 阿 蘇 山

## 1 火山活動度レベル

3月24日に1(静穏な火山活動)から2(やや活発な火山活動)に引き上げました。

## 2 概 況

昨年11月8日以降、火口内の湯だまりの温度は、60 前後のやや低い状態で経過していましたが、3月24日以降は70 以上と高くなり、土砂噴出が発生するなど、火山活動はやや活発な状態となっています。火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

## 3 噴煙活動の状況(図1)

・噴煙活動に特段の変化はなく、噴煙は白色・ごく少量で噴煙の高さは概ね300mで推移しました(最高は500m)。

## 4 地震・微動活動の状況(図1～3)

- ・火山性地震の月回数は432回(2月:372回)とやや増加しました。
- ・火山性地震の震源は、これまでと大きな変化はなく、中岳第一火口付近のごく浅いところに求まりました。
- ・孤立型微動の月回数は2,246回(2月:1,490回)とやや増加しました。
- ・火山性連続微動の振幅は小さな状態で経過しました。

## 5 火口や噴気地帯の状況(図1、図2)

中岳第一火口の湯だまりの表面温度は、昨年11月8日以降60 前後とやや低い状態でしたが、24日以降70 以上と高くなりました。また、湯だまりの南西側では高さ約5mの土砂噴出を観測しました。

- ・湯だまりの表面温度の最高は73 (24日、31日)でした。
- ・湯だまりの量は減少傾向が続き約9割から31日には約7割になりました。湯だまりの色は緑色で変化はありませんでした。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

## 6 地殻変動の状況(図4、図5)

GPSによる地殻変動の連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

## 7 地磁気全磁力の状況(図6、図7)

気象庁地磁気観測所による全磁力連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

---

資料作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所、阿蘇火山博物館のデータを使用しています。また、地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

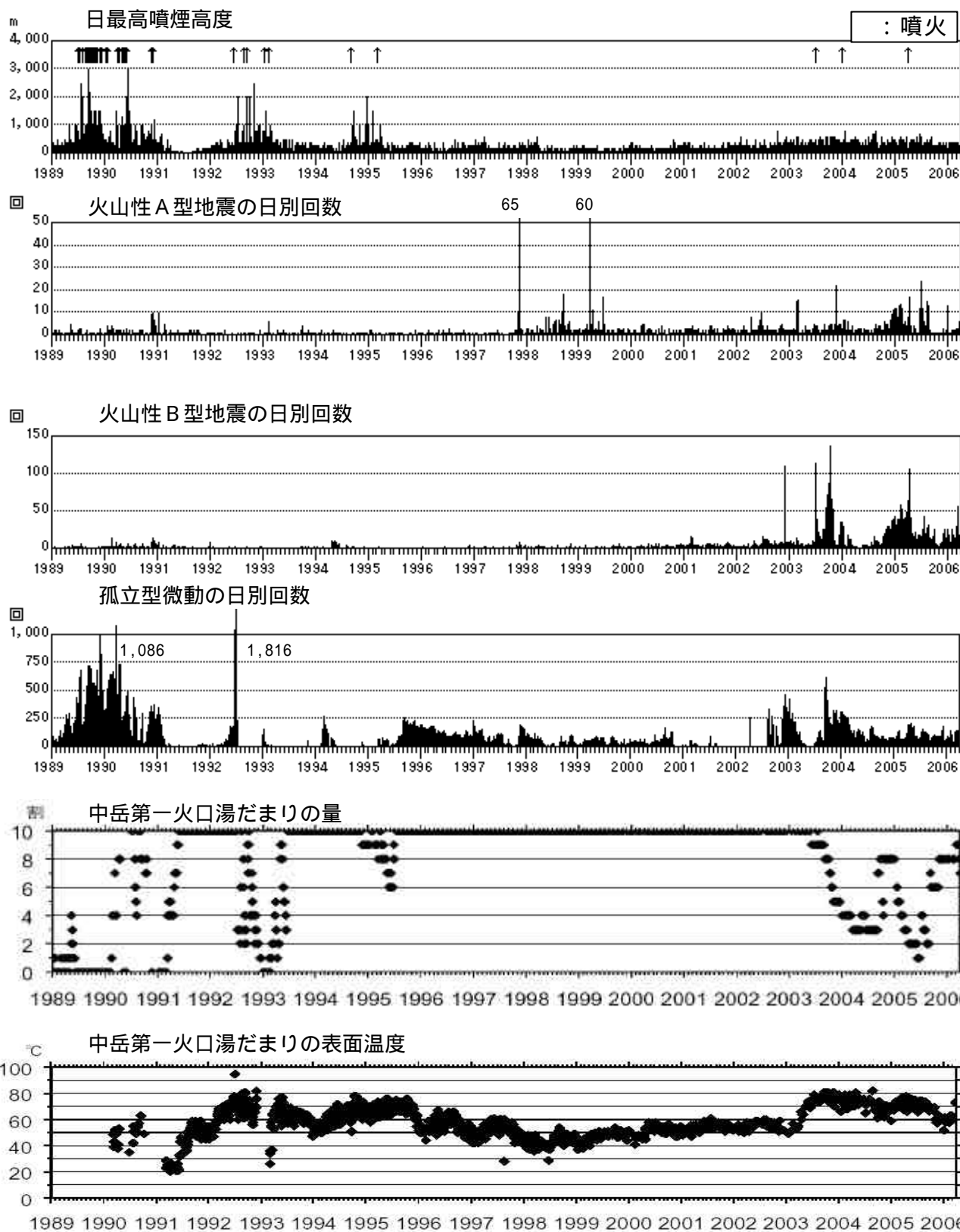


図 1 火山活動経過図(1989 年 1 月 1 日～2006 年 3 月 31 日)

噴煙の状況に変化は認められず、高さの最高は 500m でした。  
 火山性地震および孤立型微動の発生回数は、2 月に比べやや増加しました。

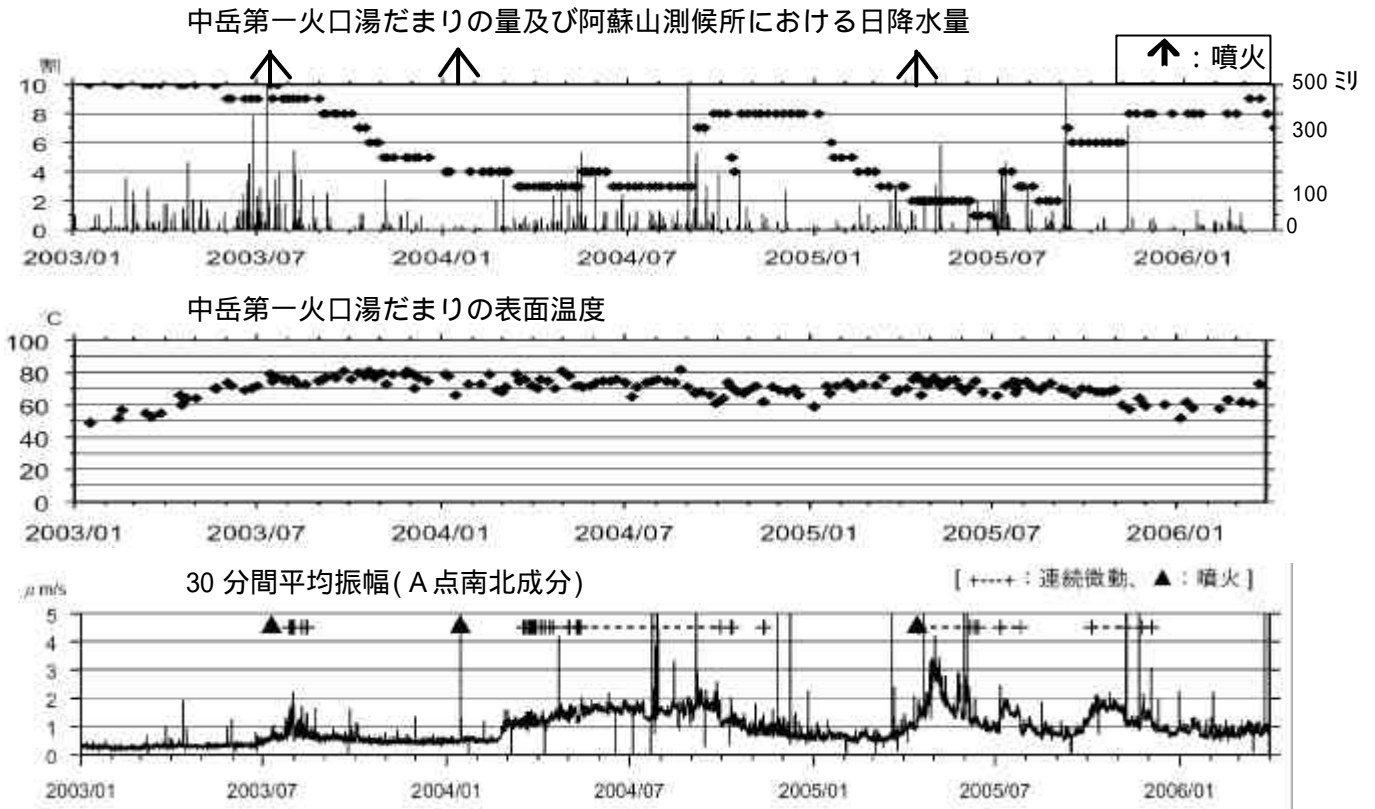


図2 火山活動経過図(2003年1月1日～2006年3月31日)

湯だまりの表面温度は24日以降70以上と高い状態で推移しました。  
 湯だまりの量は、減少傾向が続き約9割から31日には約7割になりました。  
 火山性微動の振幅は小さい状態が3月も継続しました。

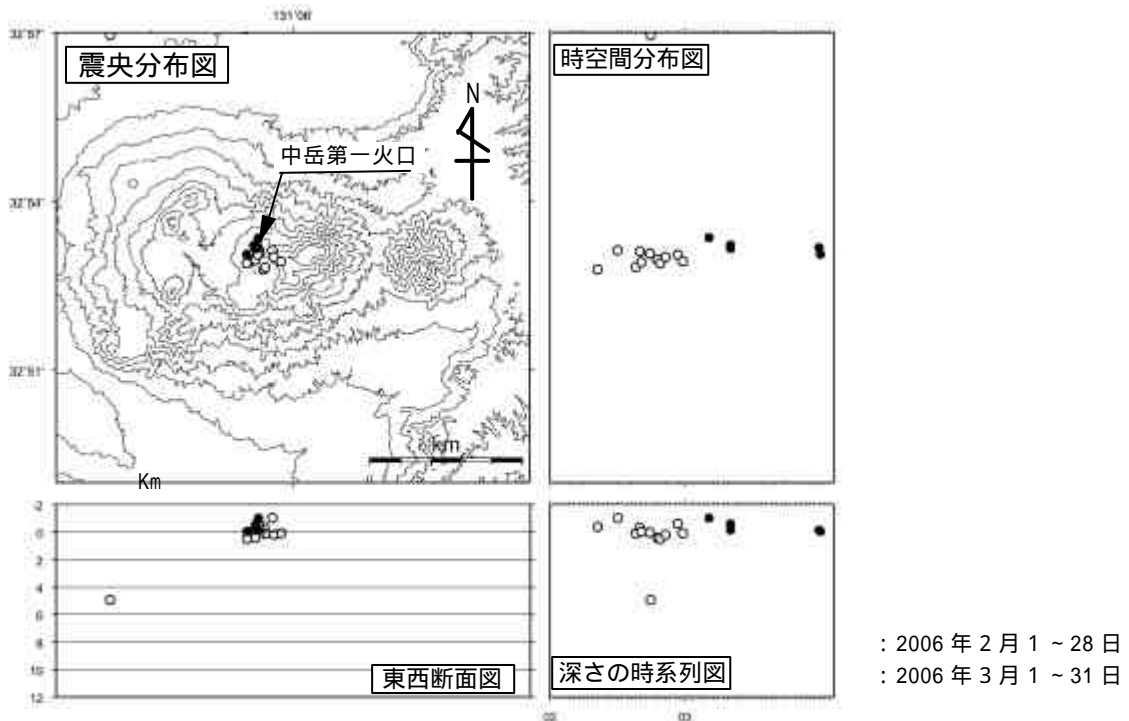


図3 火山性地震の震源分布(2006年2月1日～3月31日)

火山性地震の震源は、中岳第一火口付近のごく浅い所に求まりました。  
 (本資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、京都大学、気象庁のデータを用いて作成しました。)

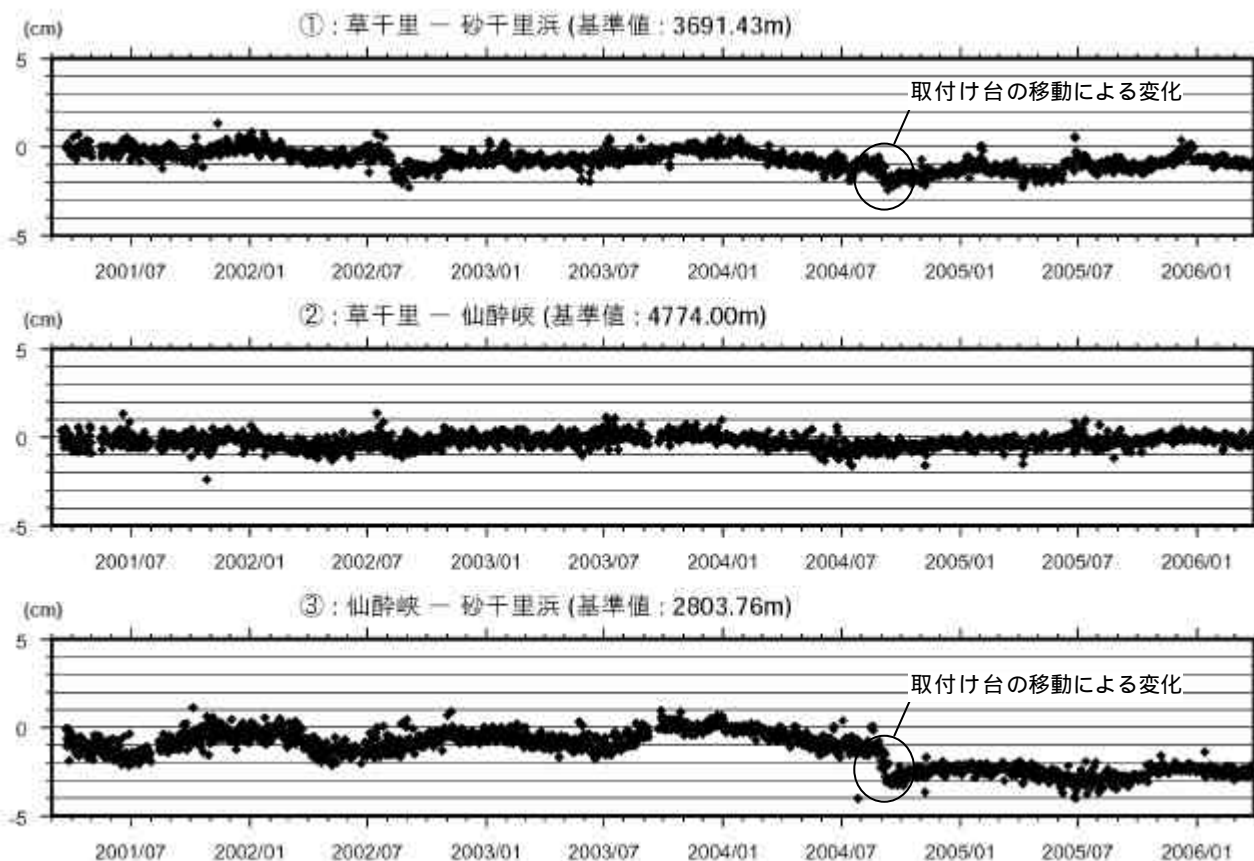


図4 GPSによる基線長変化(2001年3月15日~2006年3月31日)  
各観測点間の基線長には、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

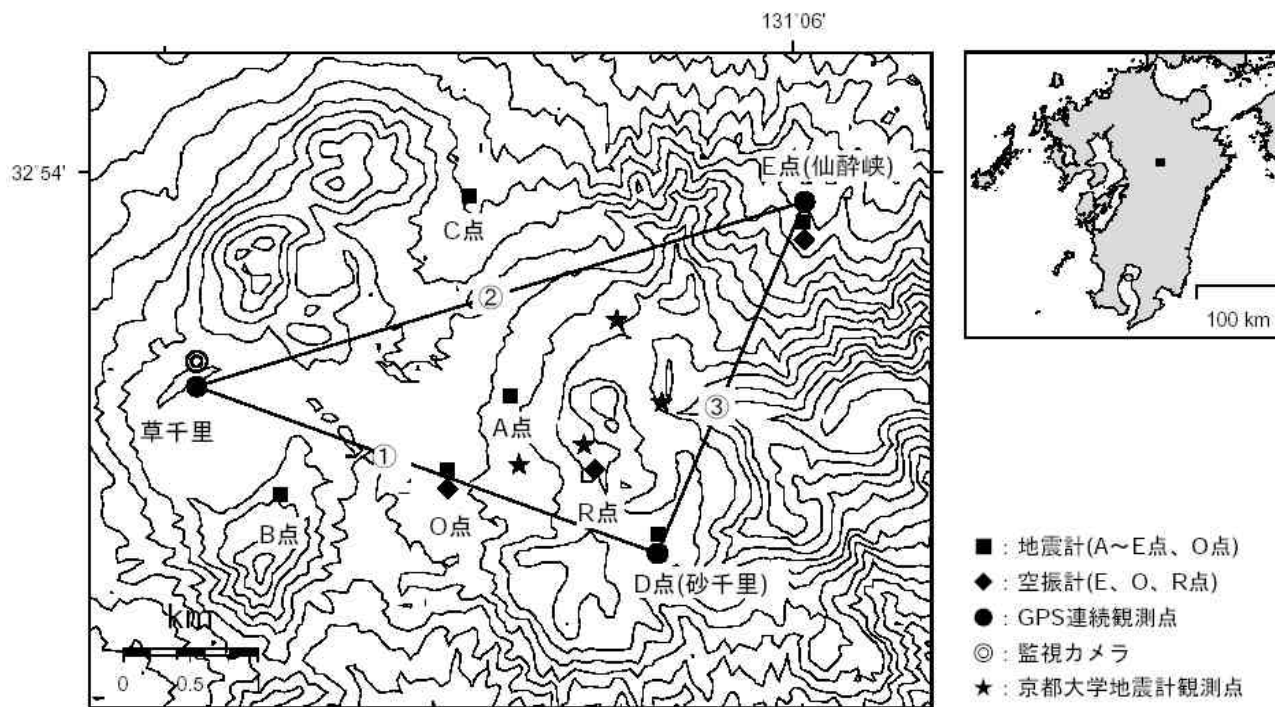


図5 観測点位置図

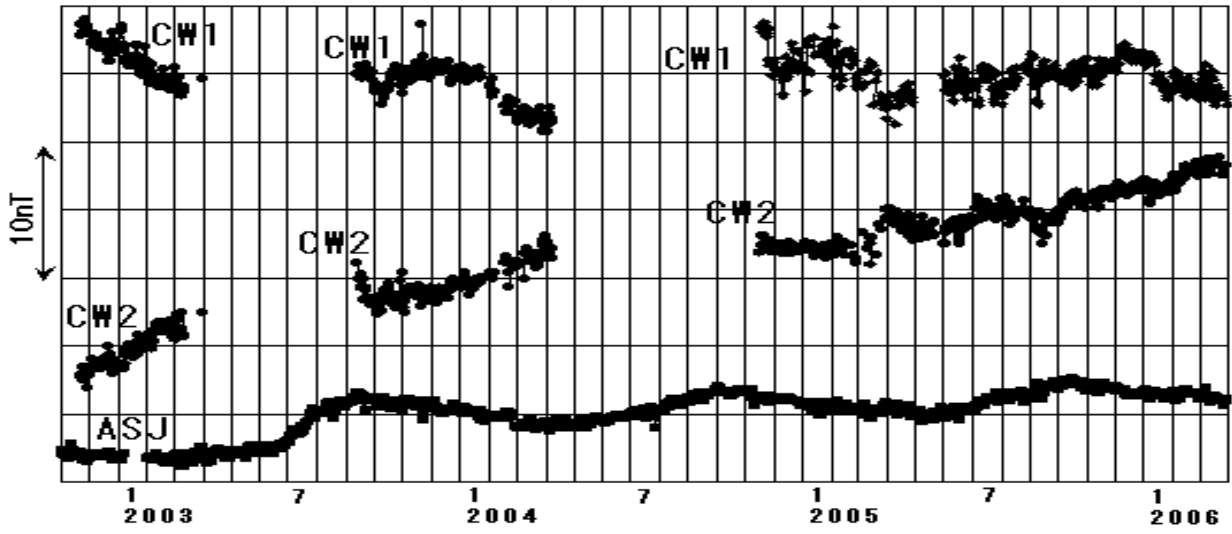


図6 全磁力連続観測の結果(2002年11月~2006年3月)  
火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

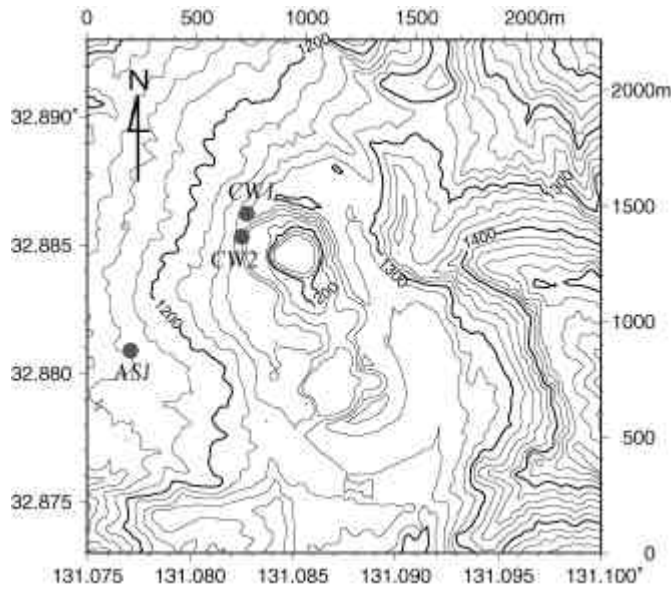


図7 全磁力連続観測点配置図